

家庭支援総合相談事業【精華町】

総事業費	154 <small>千円</small>
交付金額	115 <small>千円</small>

地域の実情と課題

本町で実施していた相談事業においては、コロナ禍により相談件数が増加していたが、相談対応人員やそれに伴う人件費不足問題があった。
様々な困難や課題を抱える女性等に対して、臨床心理士や家庭支援専門相談員による相談対応を行い、相談内容により、医療機関や各関係機関等必要な支援に繋げる事業を拡充実施する必要があった。

目的・目標

行政の相談窓口は敷居が高く相談しづらいと感じる者も一定数いるため、民間の相談場所を充実し、孤独や悩みを抱えている方が相談や必要な支援を受けることができる機会を増やす。
令和4年度の目標相談者数は200人を設定

事業の特徴

様々な困難や課題を抱える女性等に対して、臨床心理士や家庭支援専門相談員による相談対応を行う。相談内容により、医療機関や各関係機関等必要な支援に繋げる。昨年度まで月4回で実施していた相談事業を月5回に拡充した。

連携団体

社会福祉法人盛和福祉会京都大和の家(児童養護施設、乳児院)

事業の効果

相談回数を拡充することで、様々な困難や課題を抱える女性等が相談できる機会を増やすことができた。相談件数は目標には達しなかったが、悩みや不安を話せる場の提供ができ、必要な支援機関に繋げることができた。相談者数は164人であった。

今後の課題

悩みや不安を抱える女性が、安心して相談できる場の提供を今後も継続して行く必要がある。

家庭支援総合相談事業

内容

コロナ禍で不安を抱える女性や、様々な困難や課題を抱える女性等に対して、臨床心理士や家庭支援専門相談員による相談対応を行った。相談内容により関係機関等必要な支援に繋げることができた。

※コロナ禍等で相談需要が高まっていた為、既存事業を4回/月から5回/月に拡充実施した。

目標200人に対して164人の相談があった。(達成率82%)
目標には届かなかったが、悩みや不安を抱える女性等が安心して相談できる場の提供を継続していくことが重要である。



周知方法

・町広報や町ホームページへの事業案内の掲載、チラシの配架

